

♪ 2019年度 **poco a poco** ♪

Nr. 18 2019年12月12日(木) 文責:プファイル・辰巳

2学期

ミニコンサート、お疲れさまでした!

先日は、ミニコンサートのためにご来校いただきありがとうございました。エントリナンバーが43まであり、何時に終われるか心配しておりましたが、みなさまのご協力により、スムーズに進行し、17時ごろには終了することができました。会場で声援を送ってくださった方、会場に入りきれずロビーで鑑賞してくださった方、出演してくれた演奏者のみなさん、お疲れさまでした!

3学期にも今年度最後のミニコンサートが予定されています。3学期は準備期間が短くなりますので、そのことを念頭において計画を始めてください。その際、以下の点について、改めてご留意くださいますようお願いしたいと思います。

- ・曲数は短くても1曲です。3分以内だから2曲弾くというのはご遠慮願っています。元々「メドレー」として編曲されている曲以外は短くても1曲でお願いしています。出演希望者が多いコンサートなので、ご理解ください。
- ・伴奏はできる限りお引き受けしています。伴奏が必要な方は、なるべく早めに音楽科の担当の先生に相談してください。その際、授業で取り扱っていない曲については伴奏譜が必要です。

音楽こぼれ話 <今日も指揮者のお話

ニコラウス・アーノンクール>

みなさんはクラシックラジオ局の放送を聞かれたことがありますか? クラシックラジオとはいえ、映画音楽もたくさんかかるし、クラシックの有名な曲もダイジェスト版のよ



うにして次々とかかるので、気楽な感じで聴くことができます。そして、作曲家や演奏家になつわる様々な興味深いお話も聞くことができます。

先日も朝の出勤前に放送を聞いていますと、指揮者のニコラウス・アーノンクールの話題を取り上げておりました。(はて? アーンクールってまだ存命中だっけ?)と思いつつ耳を傾けました。

アーノンクールはベルリンで生まれましたが、少年時代をオーストリアのグラーツで過ごしたオーストリア人の指揮者です。ウィーン国立音楽院ではチェロを専攻し、卒業後はまずオーケストラのチェロ奏者として、演奏家の道を歩み始めました。

アーノンクールの名前が世界的に知られるようになったのは、1960年代ごろから編成した古楽器オーケストラの指揮を始めた頃からでした。当時は、グスタフ・レオンハルトとともに、古楽器演奏の両雄と言われたほどでした。

アーノンクールはさらに、古楽器オーケストラに留まらず、後にはチューリッヒ歌劇場を皮切りに、オペラの指揮者としても活躍しました。その頃から、ベルリン・フィルやウィーン・フィルを始めとする世界中のオーケストラからも客演指揮者として招かれるようになり、日本にもしばしば来日しました。2005年には「京都賞」の芸術部門賞も受賞しています。

さて、ここからがこのお話のオチになりますが、この放送は12月6日のことでした。アーノンクールは2016年に亡くなっておりませんが、2019年12月6日は、もし彼が存命していれば、90歳のお誕生日に当たるということでした。ところで12月6日は聖ニコラウスの日。そしてアーノンクールの名前は...? ご両親ともに伯爵家の生まれだったというアーノンクール。聖ニコラウスの日に生まれたからニコラウスと名付けられたのかな?

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

~アルテオーパー年末年始の演目より~

12月17日(火)~20日(金) 14:30 または 17:00 開演

モーツァルト・ホールにて

音楽メルヘン「くるみわり人形」(チャイコフスキーの音楽にのせて)

12月18日(水)~1月11日(土) 大ホールにて

BB プロモーション ミュージカル「ボディガード」